

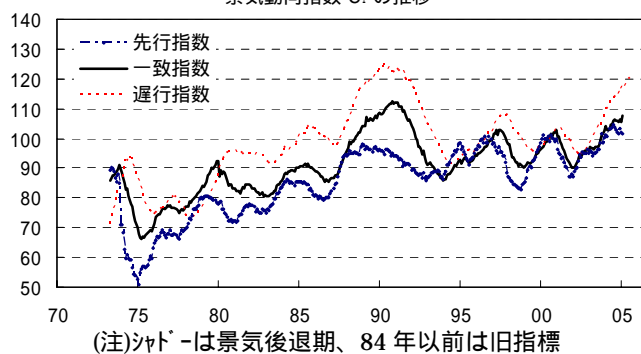
## 1. 景気の山と谷

- ・景気とは？（かなり雰囲気によるもの？）：好景気と不景気（循環のパターン）  
好景気ときは需要が強い（一般に経済成長率、物価上昇率や金利が高く、失業率は低い）、  
不景気ときは需要が弱い（上記は一般に逆）
- ・**景気動向指数研究会**（景気基準日付検討委員会を改称）が事後的に判定  
景気の「山」と「谷」を月単位で特定：戦後の景気循環は以下のとおり。  
（詳細は内閣府のサイト <http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/041112hiduke.html> を参照）  
山 1951/6 谷 51/10、 谷 山 54/1 谷 54/11、 谷 山 57/6 谷 58/6、 谷 山 61/12  
谷 62/10、 谷 山 64/10 谷 65/10、 谷 山 70/7 谷 71/12、 谷 山 73/11 谷 75/3、  
谷 山 77/1 谷 77/10、 谷 山 80/2 谷 83/2、 谷 山 85/6 谷 86/11、 谷 山 91/2  
谷 93/10、 谷 山 97/5 谷 99/1、 谷 山 00/11 谷 02/01、 谷 ？  
サイクルの期間は区々：拡張期は 22～57 か月、後退期は 4～36 か月、全循環は 31～83 か月

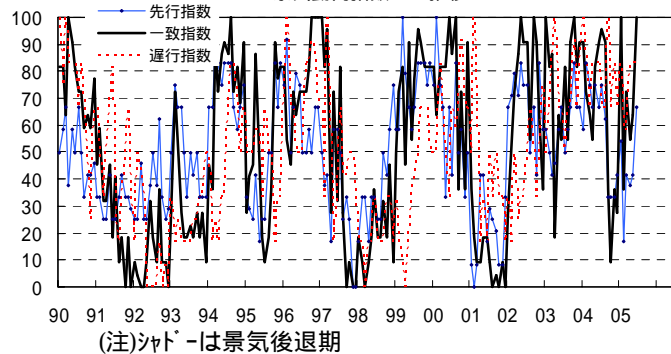
## 2. 景気動向指数（C.I. およびD.I.）の推移

- 詳細は、内閣府ホームページの解説（<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di3.html>）を参照
- ・景気に関する経済指標を集大成して、先行指数（現在は 12 系列）、一致指数（同 11 系列）、遅行指数（同 6 系列）を作成：具体的な指標は次回説明
  - ・2つの指標：C.I.（コンポジット・インデックス）と D.I.（ディフュージョン・インデックス）  
変化率を合成して量感を把握する C.I. 月々の振れは概して小さい  
変化方向を示した D.I.（拡張系列数の比率）月々の振れがかなり大きい

景気動向指数 C.I. の推移



景気動向指数 D.I. の推移



## 3. 景気循環の主なサイクル論

- ・キチン循環（在庫投資中心の短いサイクル）、ジュグラー循環（設備投資中心の 9～10 年のサイクル）、コンドラチェフ循環（技術革新に関連？）など
- ・「リアル・ビジネス・サイクル」の議論

## 4. 日本の主な景気判断

- ・月例経済報告（政府の経済判断＜関係省庁で調整済み＞、景気の基調に対する判断、特有の表現）
- ・政府経済見通し：具体的な計数を提示、税収見通しなどの基礎、経済政策論議の中で注目される
- ・日本銀行の景気判断等：金融経済月報、政策委員の経済・物価に対する見通し、支店別の景気判断
- ・国際機関（IMF、OECD 等）の経済見通し
- ・国内研究機関（各種シンクタンク）の経済見通し

以上